

行政改革推進懇談会を開催しました ～行政改革の推進と市民サービスの向上を目指して～

問合せ 行政改革課 (☎ 76 - 1156)

外部有識者と市長による意見交換を通して、本市の行政改革の取組に対して意見をいただく「行政改革推進懇談会」を11月28日に開催しました。
懇談会で出された意見をふまえ、今後のさらなる行政改革の推進と市民サービスの向上に取り組んでいきます。



本市の行政改革の位置づけ

小牧市まちづくり推進計画
第1次基本計画

市政戦略編

分野別計画編

自治体経営編

(基本施策)

「協働・情報共有」

「行政サービス」

「行政運営」

「財政運営」

自治体経営改革推進計画

自治体経営編の内容を実現するために策定する具体的な取組項目(50項目)をまとめた計画

懇談会の構成 (7人)

萩原 聡央 (座長)

(名古屋経済大学 法学部教授)

浦田 真由

(名古屋大学 大学院情報学研究科准教授)

岡田 和明

(名古屋経済大学 法学部特任教授 / 地域連携センター長)

栗林 芳彦

(名古屋文理大学 情報メディア学部教授)

後藤 久貴

(公認会計士)

横山 幸司

(滋賀大学 経済学部教授 / 社会連携センター長)

山下 史守朗

(小牧市長)

行政改革推進懇談会の主な発言内容は、市ホームページで公開しています。



外部有識者の **主** **な** **発** **言**

市 民活動が企業の社会貢献活動も巻き込んだような活動になっていくと素晴らしいまちになっていくと思う。自治体経営という面では、そういった活動をどこで評価して、どこでリードしていくのがこれからの課題だと思う。

情 報発信の手段として SNS を利用するだけでなく、「ソーシャルリスニング」という調査手法を用いて、SNS でどのような発信をされているか、SNS を広聴的に使うやり方も注目されているので、今後検討されるといいと思う。

公 共施設の適正な配置となると、どうしてもハードの話に偏りがちだが、ハードとソフト表裏一体で考えていく必要があると思う。会館においても、人口減少、高齢化が進む中、地域の担い手が不足してくれば、今までと同じような組織、事業の存続は不可能だと思う。そのあたりを整理していくこととあわせて、会館の必要性について説明することが必要だと思う。

企 業の環境は、ここ 2、3 年厳しい状況が続いていく。財政状態がいろいろにいろいろな手を打って、さらに魅力あるまち、人気のあるまちになってほしいと思う。



市長の主な発言

まちレポこまきは、活用が広がっていますが、写真の送りがよくわからないなどの声もある。**デジタルデバイド**(※)の解消ということで、一度体験してもらう機会をつくるというのは非常に大事だと思う。

※デジタルデバイド：インターネットやパソコン等の通信技術を使える人と使えない人との間に生じる情報格差のこと

保育園でも業務負担軽減の中で、**小型モバイル端末を全ての教室に配置**して ICT 化を行った。ICT 化を業務改善につなげて、**負担感の軽減**を図ったり、積極的にやっている。

令和 5 年 1 月からは、**オンラインの新たな予約システムが稼働**する。施設予約の適正化について、特定の方々に偏らないようにということは、非常に大きなポイントとして考えている。

市民がより優先的に利用できるようにしたい。また、スポーツ協会が掲げる「市民総スポーツ化」に向けて**特に、個人でも利用しやすいようにしたい**という考えもあるので、努力したい。

市の取組

まちレポこまき

市の管理する道路や公園遊具の不具合、違反屋外広告物などに関する情報提供を LINE で受け付ける、市民レポートシステムです。



保育支援システムの導入

業務改善のための ICT 化の一つとして、保育支援システムを導入しました。

保育業務の効率化や「出欠席やお知らせ」などで保護者とのスムーズな連絡が可能となり、保護者の利便性の向上と保育環境の充実につなげていきます。



新たな施設予約システム

1 月 4 日より、施設に行かなくても、オンラインで施設の予約・抽選申込・支払が可能となりました。

施設予約の詳細は、市ホームページをご確認ください。

